47　家族愛、家庭生活の充実　×　規則の尊重

財布

年　　組（　　）

「あれまあ、私の薬がないわ。」

おばあちゃんの声が聞こえたので、カズキはおどろいた。

「あと２週間分あったんじゃないの。あの薬がないと、大変じゃないか。」

「昨日のゴミと一緒に捨てちゃったのかもしれないねえ。」

おばあちゃんは病気を持っている。その薬がなければ、夜中に発作が起こってしまう。前にお医者さんは「こういう発作が命取りになるから。必ず毎日薬を飲んでください。」と言っていた。

病院は遠いので、いつもはお父さんやお母さんがもらってきている。よりによって、２人とも仕事で家にいない。

カズキは時計を見た。４時だ。病院は５時までだから、ギリギリ間に合うかもしれない。

「おばあちゃん。ぼくがもらってくるよ。」

「本当かい。すまないねえ。気をつけて行っておくれよ。」

バス停までかけていって、とび乗った。しばらく進んだところで、思い出した。

「あっ！　財布を忘れた！」

急いで出てきたものだから、財布を置いてきてしまった。

幸い、バス代だけはリュックのポケットに入っていた。でも、お金がはらえないのでは、薬ももらえない。とはいえ、今から引き返したとすれば、病院は閉まってしまう。

なやんでいると、前のイスの下に、黒いものが見えた。拾ってみると、財布だった。お金がギッシリとつまっていた。

これがあれば、おばあちゃんの薬は買える。お金は後から入れ直して、それから交番へ届ければいいじゃないか。

でも――。カズキは、財布をジッと見つめた。

カズキは、どうするべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

話し合って考えたことを書きましょう。